

# 労働映画百選通信 No.07 2016.04

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

**遂に決定!**

## 『日本の労働映画百選』

**いよいよ発表!**

記念シンポジウムと映画上映会を開催!

映画は日本の仕事と暮らし、働く人たちの悩みと希望、働くことの意義と喜びをどのように描いてきたのか。働くことの今とこれからについて考えるために、一世紀余の映画史の中から日本の労働映画百本を選びました。記念シンポジウム・映画上映会を下記のとおり開催します。ぜひご参加ください。

日時: 2016年 6月 11日(土) 13:30~17:15 参加費無料・申込不要

場所: 連合会館 2階大ホール (地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)

《主催・お問い合わせ先》 NPO法人 働く文化ネット info@hatarakubunka.net

【プログラム】

13:30~13:45 主催者代表あいさつ ご来賓あいさつ

13:45~15:15 **パネルディスカッション「日本の労働映画の一世紀」**

《パネリスト》 井坂能行(岩波映像顧問) 篠田 徹(早稲田大学教授)

佐藤 洋(共立女子大学講師) 清水浩之(映画祭コーディネーター)

《司会》 鈴木不二一(働く文化ネット理事)

15:15~15:30 休憩

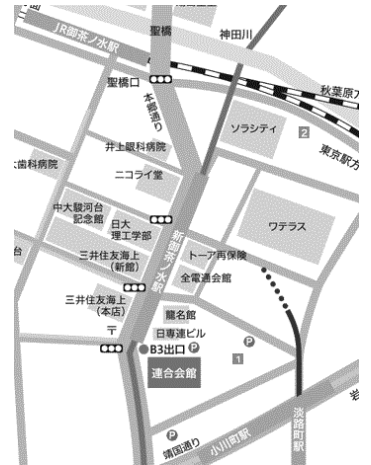
15:30~17:15 **映画上映『にあんちゃん』**

1959年/101分 製作/日活 監督/今村昌平 出演/長門裕之、松尾嘉代

九州の小さな炭鉱町を舞台に、両親を亡くした4人兄妹が懸命に生きる姿を、重厚なりアリズムで描く。

17:15 閉会

労働映画 スペシャルサイト <http://hatarakubunka.net/>



【上映情報】労働映画列島! 4~5月 ※「労働映画列島」で検索! <http://d.hatena.ne.jp/shimizu4310/00160403>

◎新作ロードショー

**山河ノスタルジア** 《4月23日(土)から 東京 渋谷 Bunkamura・シネマほかで公開》

20世紀末から急速に変化していった中国社会を背景に、時代に翻弄されていく母と子の愛の軌跡を描いた人間ドラマ。(2015年 中国 監督/ジャ・ジャンクー) <http://www.bitters.co.jp/sanga/>

**殿、利息でござる!** 《5月7日(土)から 宮城 MOVIX仙台ほかで先行公開、14日から全国公開》

実話に基づいた時代劇。商人たちが千両もの大金を仙台藩に貸し付け、その利子の配分で寂れた宿場町を復活させていく。(2016年 日本 監督/中村義洋) <http://tono-gozaru.jp/>

**ふたりの桃源郷** 《5月14日(土)から 東京 ポレポレ東中野ほかで公開》

戦災で家を失った後、自ら切り開いた山で暮らし続けた夫婦と家族の25年間を、2世代にわたって追いつけたドキュメンタリー。山口放送開局60周年記念作品。(2016年 日本 監督/佐々木聰) <http://kry.co.jp/movie/tougenkyou/>

◎名画座・特集上映

【東京 北千住 シネマブルースタジオ】4/6~6/14「昭和を彩った女優たち」…キューポラのある街/につぼん昆虫記/他

【東京 池袋 新文芸座】4/17~28「脚本家・橋本忍 執念の世界」…七つの弾丸/コタンの口笛/黒い画集/他

【東京 神保町シアター】4/23~5/6「桂文珍セレクション 大阪と映画」…白い巨塔/花のれん/じゃりん子チエ/他

【東京 シネマヴェール渋谷】4/23~5/20「孤高の天才・清水宏」…小原庄助さん/女医の記録/有りがたうさん/他

【東京 ラピュタ阿佐ヶ谷】5/1~6/25「喜劇 駅前大集合!」…喜劇 駅前温泉/喜劇 駅前飯店/喜劇 駅前金融/他

【川崎市市民ミュージアム】4/29~5/15「戦後ポーランド映画の系譜」…世代/身分証明書/マテウシの生活/他

【仙台 桜井薬局セントラルホール】4/9~5/5「エミール・クストリッツァ特集」…黒猫・白猫/ジブシーのとき/他

【大阪 中崎町 プラネット】4/9~「シリーズ映画史 映画の樹」…リュミエール作品集/極北のナヌーク/自転車泥棒/他

【大阪 十三 シネ・ヌーヴォ】4/30~6/24「松竹120年祭」…お嬢さん乾杯/バナナ/この広い空のどこかに/他

【広島市映像文化ライブラリー】4/1~5/29「時代劇特集」…一心太助 天下の一大事/人情紙風船/ちいさこべ/他

【福岡市総合図書館・シネラ】5/3~28「新東宝映画特集」…東京のえくぼ/草を刈る娘/もぐら横丁/他

【那覇 桜坂劇場 ほか】4/21~24「第8回 沖縄国際映画祭」…沖縄を変えた男/ホームマンの純情/他

【テーマ研究】# 7 《会社員生活/女性編》 資料作成:波多楽久

日本の労働映画の歴史を辿るとき、縦軸には「時代」があり、横軸には様々な職業や仕事の形態、労働の意義や現場の課題など、多岐にわたる「テーマ」が広がっている。この欄は、テーマごとに関連する作品を発掘していく試みである。

今月は《会社で働く女性たち》を描いた作品を、時代ごとに集めてみた。大正から昭和の初め頃、サラリーマンを描く映画が作られるようになると、社内でタイピストとして働く女性も登場する。その後も「職業婦人」「BG」「OL」と、呼び名が変わるごとに注目されるが、「労働者」の側面はあまり描かれてこなかった。1986年の「男女雇用機会均等法」施行以降、女性と労働をテーマとしたドラマが徐々に出てきたので、今後は映画でも画期的な作品が登場することを期待したい。

ジャンル:【劇】劇映画【短】短編映画【ア】アニメ【TV】テレビ番組/ソフト:[DVD][VIDEO]/  
映像ライブラリー:[NHK]各局の公開ライブラリーで閲覧可能【放L】放送ライブラリー(横浜)で閲覧可能

【劇】日曜日(1924) 松竹蒲田  
監督/島津保次郎 出演/正邦宏、五月信子  
会社員の青年が、社内のタイピストに恋をするが…。

【劇】虚栄は地獄(1925) 朝日キネマ  
監督/内田吐夢 出演/龍田静枝、長谷川清  
エリート社員を騙った男と、社長秘書を名乗る女の喜劇。

【劇】丸の内五人女(1931)  
新興太秦 監督/曾根純三 出演/森静子

【劇】丸の内お洒落模様(1932)  
東活映画 監督/三星吐詩夫 出演/中野かほる

【劇】東京の女(1933) 松竹蒲田  
監督/小津安二郎 出演/岡田嘉子、江川宇礼雄 [DVD]  
タイピストとして働く姉が、夜は水商売をしていたことを知り弟は姉を問い詰める。脚本では姉と「党」との関係も暗示。

【劇】兄の花嫁(1941) 東宝 監督/島津保次郎  
出演/原節子、高田稔、山田五十鈴  
大阪で会社に勤める妹が、兄の見合い結婚を心配して帰郷し、一週間の新婚生活を見守るホームドラマ。

【劇】東京のえくぼ(1952) 新東宝  
監督/松林宗恵 出演/丹阿弥谷津子、上原謙 [DVD]  
商社会社の社長秘書になったヒロインが、毎日の屈辱な仕事に嫌気がさしている社長の“脱走”を手助けする。

【劇】B・G物語 二十才の設計(1961)  
東宝 監督/丸山誠治 出演/星由里子、船戸順  
源氏鶏太の小説を映画化。B・G(ビジネスガール)1年生のヒロインが、同僚社員との恋愛を経験する。

【TV】若い季節(1961-64) NHK 演出/岡崎栄ほか  
脚本/小野田勇 出演/淡路恵子、水谷良重、黒柳徹子  
東京・銀座の「ブランド化粧品」の社員たちを、歌と笑いとともに描いた生放送のコメディドラマ。1962年に映画化。

【劇】その場所に女ありて(1962)  
東宝 監督/鈴木英夫 出演/司葉子、宝田明 [VIDEO]  
広告代理店の営業ウーマンが、製薬会社からの新規受注を巡って、ライバル社の男性と駆け引きを繰り返す。

【TV】現代の記録 BGの周辺(1962)  
NHK ナレーター/加藤治子 [NHK]  
「BG」と呼ばれた女性社員たちの日常生活と本音を綴る。

【短】K子の世界 BG生活の周辺(1964) 岩波映画  
企画/東京都進路指導技術研究所ほか 監督/藤久真彦  
女子高校生を対象に、女性社員「K子」の職業観を紹介。

【劇】私、違っているかしら(1966)  
日活 監督/松尾昭典 出演/吉永小百合、浜田光夫  
森村桂の自伝的エッセイを映画化。出版社の記者を夢見て就職活動に奔走する女子大生の奮闘記。

【劇】OL日記 濡れた札束(1974)  
日活 監督/加藤彰 出演/中島葵 [DVD]  
滋賀で起きた9億円横領事件を基に映画化。ベテラン女性銀行員が、若い男のために横領に手を染めていく。

【TV】女が会社へ行きたくない朝(1983) テレビ朝日  
演出/真船禎 脚本/鎌田敏夫 出演/古手川祐子 [放L]  
建築資材会社に勤めるOLたちが、嫉妬や社内恋愛のしがらみを乗り越えて、友情を見つけるまでの物語。

【TV】冷たい夏 女子大生就職活動日記(1986) フジテレビ  
監督/馬場昭格 脚本/筒井ともみ 出演/麻生祐未  
岸本葉子の就職活動記をドラマ化。真面目な女子大生が就職活動で初めて挫折を味わう姿を淡々と描く。

【ア】OL改造講座(1990) 東京ムービー新社 [VIDEO]  
週刊現代の連載企画をオムニバス形式でアニメ映画化。

【TV】お嬢だん(1990) 日本テレビ 出演/中尊寺ゆつこ  
「オヤジギャル」という流行語を生み出したマンガを、原作者自身の主演でドラマ化。大手商社OLの優雅な日常。

【TV】悪女わる(1992) 読売テレビ 演出/山本和夫ほか  
脚本/神山由美子 出演/石田ひかり [VIDEO][放L]  
深見じゅんのマンガをドラマ化。コネで一流商社に入社したヒロインが、持ち前のファイトで頭角を現していく。

【TV】Dear ウーマン(1996) TBS 演出/吉田秋生ほか  
脚本/中園ミホほか 出演/東山紀之、大竹しのぶ [DVD]  
人事部の「女性担当窓口」に配属された男が、セクハラ横行する社内の環境改善に奮闘する。

【劇】OL忠臣蔵(1997) 光和インターナショナル/松竹  
監督/原隆仁 出演/坂井真紀、南果歩 [DVD]  
通販会社の女性社員たちが、悪質な企業乗っ取りの陰謀から自社を守るために立ち向かっていく。

【劇】てなもんや商社(1998) 松竹  
監督/本木克英 出演/小林聡美、渡辺謙 [VIDEO]  
現代っ子OLが、中国との貿易の仕事を通じてたくましく成長していく姿を描いた青春コメディ。

【TV】シヨムニ(1998) フジテレビ 演出/鈴木雅之ほか  
脚本/高橋留美ほか 出演/江角マキコ、京野ことみ [DVD]  
安田弘之のマンガをドラマ化。商社の窓際部署「庶務二課(シヨムニ)」6人組の活躍。同年に高島礼子主演で映画化。

【TV】プロジェクトx 女たちの10年戦争(2000) NHK [DVD]  
「男女雇用機会均等法」誕生秘話。自らも仕事と家庭の両立に苦しんで、労働省の女性官僚たちのたたかい。

【TV】anego -アネゴ-(2005) 日本テレビ [DVD]  
演出/佐久間紀佳ほか 脚本/中園ミホ 出演/篠原涼子  
林真理子の小説をドラマ化。30代の独身OLが、仕事や結婚などの悩みを抱えつつ生きる日々を描く。

【TV】Good Job グッジョブ(2007) NHK 演出/片岡敬司  
脚本/大森美香 出演/松下奈緒、徳重聡 [DVD]  
かたおかみさおのマンガを実写化。建設会社の営業部員たちをメンタル面で仕切る「ハイパーOL」の活躍を描く。

【TV】ハケン品格(2007) 日本テレビ [DVD]  
演出/南雲聖一ほか 脚本/中園ミホ 出演/篠原涼子  
食品商社に派遣された、有能だが「契約外のことは一切しない」非正規社員の活躍。韓国でもリメイクされた。

【TV】泣かないと決めた日(2010) フジテレビ [DVD]  
演出/石川淳一ほか 脚本/渡辺千穂 出演/榮倉奈々  
「バワハラ」を描く社会派ドラマ。大手商社の新人OLが、上司や先輩からの「職場いじめ」に遭う。

【TV】エイジハラスメント(2015) テレビ朝日  
演出/田村直己ほか 脚本/内館裕子 出演/武井咲 [DVD]  
総合商社に入社した女性が、「若さ」に対する同僚たちのいじめに苦しみながら、前向きに問題を解決しようとする。

※このリストを引用する時には【労働映画百選より】と付記いただきますよう、お願いします。

【作品ガイド】『俺たちの交響楽』 文：若木康輔

1979年/112分 製作/松竹 脚本・監督/朝間義隆 脚本/梶浦政男 原案/山田洋次 音楽・指揮/外山雄三  
出演/武田鉄矢 友里千賀子 永島敏行 森下愛子 熊谷真実 岡本茉莉 山本圭 田村高廣

《「一緒にベートーヴェンの『第九』を歌いましょう」。川崎の鉄工所に勤める徳次郎は、駅前で京子に勧誘され、市民合唱団に参加する。女の子との出会いが目的の徳次郎だったが、京子や団長・渋谷たちの情熱に次第に感化されていく。恋愛問題や仲間の離脱などを乗り越え、年末の公演に向けて歌声の連帯は深まっていき……》

工員の街に響く「歓喜の歌」。労働と芸術の融和を高らかに謳った青春映画の傑作

「昼休みに、小説や硬い内容の本を読みたくても読めないよ。みんながスポーツ新聞や週刊誌を開いているところで決まりが悪くて……」

時々こういう声を聞きます。読書でも音楽でも、のびのび話し合える相手が職場にいない味気無さは実感としてよく分かるし、同時に、かつては盛んだった文化サークル活動の意義も、改めて考えさせられます。

個人で没れる娯楽が増えた分、横の断線が広がったように感じられる今だからこそ。地方から出てきて川崎で働く若い仲間が集まり、「第九」を歌うこの映画。いいです。公開当時は古くさく感じられたし、実際、当時のヤングの感性からは少しズレていたと思うんだけど。時代が回ると、根幹の太さがよく分かります。働く者にも芸術は必要である。否、生きる辛さや苦しさを汗と涙で知る者こそが芸術の良き理解者・実践者たり得る、というテーゼです。

監督は、『男はつらいよ』シリーズなど山田洋次監督作品の脚本を共同でつとめてきた朝間義隆。本作がデビュー作。洋次さんは1977年に労音の企画製作の舞台『カルメン』を演出しており、これをきっかけに川崎労音合唱団「エゴラド」をモデルにしたストーリーが生まれました。そして本作は、『幸福の黄色いハンカチ』で俳優としてブレイクした武田鉄矢の映画初主演作でもあります。朝間・鉄矢コンビの作品は、次作の『思えば遠くへ来たもんだ』からしばらく「寅さんのB面」としておなじみになりますが、そのスタートと言えます。渥美清、倍賞千恵子を始め、とらや一家がこぞって応援出演し花を添える楽しさ。

朝間作品はまさにそこ、山田洋次の弟分映画である点が魅力です。寅さんが現れない寅さん映画と言ってもいいかな。たまにフラリと帰ってきて笑いと恋の騒動を巻き起こすトリックスターがいない、博さんのような真面目な「労働者諸君」だけの世界はつまらないか？ そんなことはない、みんな思うことがあり、将来の夢があり、衝突もしながら友愛を育てていく。誰もが主人公なのだ、とコツコツ積み上げていく作り方(実際の「エゴラド」団員とキャストが混じって共に練習する、セミドキュメンタリーになっている点は大きな見どころです)。ああ、だからフーテンの寅さんも懐かしくなり定期的に戻りたくなるのだと納得できる世界を、丁寧に描いてくれるのです。

「たとえ一人でも本当の友達がいる奴やすてきな恋人をもっている奴は万才だ」

クライマックスで歌われる第4楽章。テロップに乗るのは、連帯とは何かをまっすぐに伝える感動的な訳です。

5月の「労働映画鑑賞会」で上映されるとのことで、多くの方が本作を楽しむ場を、想像するだけで嬉しいです。武田鉄矢が微妙にイメージと違う、すぐ学歴コンプレックスでいじけてしまう若者を張り切って演じている姿は愉快だし、当時キラキラしていた若手女優が揃っているのも眩しい。彼等の仲間になれるような人でありたい……と爽やかな気持ちで思える映画ですよ。

若木康輔(わかきこうすけ) 1968年生まれ。番組構成作家、ライターとして労働中。今年フリーランスとなって21年目です。



[DVD] 松竹

【次回の労働映画鑑賞会】

4～6月の統一テーマ：働くこと、生きること、つながること

働く文化ネットでは、毎月第2木曜日に労働映画鑑賞会を開催しています。お気軽にご参加ください。

場所：連合会館 2階 大会議室 (地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)  
参加費：無料(事前申込不要、どなたでも参加できます)



第28回「工場街で『第九』しようぜ！」

日時：2016年 5月12日(木) 18:30～(18:00開場)

場所：連合会館 2階 大会議室

上映作品 ■

俺たちの交響楽 (内容は上記を参照)



※5月10日(火)には「調布シネサロン」でも上映されます。

10:30～/14:30～ 会場：調布市グリーンホール (主催：調布市文化・コミュニティ振興財団)



【労働映画のスターたち】第7回「草薙 剛」 文:百永良武

当代随一の「等身大」スター 草食男子の40代はどこに向かう？

切れ長の目。高い鼻筋。太い直線で描かれた眉と頬。彼を初めて見た時、「ジャニーズの子にしては、ずいぶんと古風な顔立ちだなあ…」と感じたことを覚えている。男性アイドルといえば甘いマスクやクリッとした可愛い顔が主流だった時代。「草薙」という初めて聞く苗字とともに異彩を放つ存在だったが、まさか現在のよう大スターに成長するとは想像もできなかった。ご本人の証言によると、中学生の頃からジャニー喜多川社長に「ユーは28歳の顔だね」と言われていたそうだが、「アイドルらしさ」を求められなくなる年齢になってから本領を発揮することを、社長は最初から見抜いていたのかも知れない。重厚な時代劇からシュールなコメディまで、幅広いジャンルの作品で主演を務め、すでに「大スター」級の実績を築きながら、どんな時代や設定の中にも違和感なく登場できる「等身大」スター。国民的アイドルグループ「SMAP」で共に歩んできた木村拓哉や中居正広とは違う、不器用だが温かみのある存在感。40代に入った今後、さらに面白くなると思う。

1974年生まれ。今年7月には42歳になる。同学年の有名人には元メジャーリーガーの松井秀喜、バラエティ番組の帝王・有吉弘行、国会議員の山尾志桜里や山本太郎…といった人々が揃う。まさに今の日本を「ど真ん中」で支えている世代だ。つまり、草薙の出演歴を辿れば、この世代が社会人として歩んできた20年間の軌跡も見えてくる。

「中1の時からずっと働いてきた」と語る草薙は、1988年結成の「SMAP」で正式にデビュー。当時11歳から15歳のメンバーは、いずれも東京近郊の自宅から“通勤”していた。歌番組が激減した「アイドル冬の時代」だったこともあり、喜多川社長は彼らを「ドリフターズのような存在」に育てようとする。「歌えて・踊れて・笑わせる」アイドルを目指し、萩本欽一やタモリのバラエティ番組で修行を積んでいく。やがて1996年4月、SMAP初のゴールデン枠での冠番組「SMAP×SMAP」が始まると、5人のメンバーは単独でも映画・テレビの主演者として活躍するようになる。

連ドラ初主演作は、関西テレビの『いいひと。』（1997）。学生時代に長距離走選手だった主人公がスポーツシューズのメーカーに就職し、その並外れたお人好しの性格で、周囲の人々の心を掴んでいく物語。草薙のノンビリした雰囲気役柄にピッタリだった。『古畑三郎』などで知られる監督・星護の、細部にまでこだわった演出とも相性が良く、平均視聴率20%のヒット作となった。

その後、関西テレビでは草薙主演の「僕」シリーズが始まる。『僕の生きる道』（2003）では、胃癌で余命1年と宣告された高校教師が、残りの人生を精一杯生きようとする。続く『僕と彼女と彼女の生きる道』（2004）は、妻から離縁された銀行員が、一人娘の父親としての自覚を持つまでの物語。『僕の歩く道』（2006）では、自閉症の青年が家族からの自立を目指し、動物園の飼育係として働く日々を描く。平凡な青年の人間的な成長を温かく見守る3部作として、多くの人の共感を集めた。

一方で、温厚な「草食男子」のイメージを逆手にとって、様々な困難に直面した主人公が解決に向けて八面六臂の活躍を見せるドラマの系譜も生まれていく。旧文部省のエリート官僚が警視庁へ研修にやって来て、書類の上ではわからなかった少年犯罪の「現場」を体験する『TEAM』（1999/フジテレビ）では、ベテラン刑事・西村雅彦と激しく対立しながら、次第に協力関係を築いていく姿が描かれる。その後は映画『黄泉（よみ）がえり』（2003/監督・塩田明彦）の厚生労働省職員、『日本沈没』（2006/樋口真嗣）の深海調査艇長、『BALLAD 名もなき恋のうた』（2009/山崎貴）では戦国時代の武士と、オーディオックスな2枚目役が続くが、2009年の“泥酔事件”による謹慎を経てからは、何か吹っ切れたかのように「闇を抱えた男」を演じるようになり、新境地を開いた。

謹慎明け直後に主演したドラマが『任侠ヘルパー』（2009/フジテレビ）。ヤクザ組織の幹部候補生たちが“研修”で老人介護施設に送り込まれ、現代社会から置き去りにされた老人たちとのふれあいを通して「真の任侠道」に目覚める。コンセプトは荒唐無稽だが、活劇の中に介護の実情を巧みに盛り込んだ結果、笑いと涙を誘う傑作が生まれた。振り込め詐欺をシノギにしていた主人公は、老人側で「誰かと触れ合えるのなら、騙されてもいい」という切実さを知り、介護の「道を極め」ていくことになる。30代の「男らしさ」を前面に出した草薙の姿は、やはり30代に入ってから任侠映画でブレイクした頃の高倉健を彷彿とさせる。アクション演出に定評のある西谷弘監督が、ゴスペル風のテーマ曲に乗せて流麗に描いた世界は、どこか「日本離れ」していて魅力的だった。2012年には映画化もされたが、日本映画の黄金時代であれば人気シリーズになったのではないかな。

その後も、無実の罪に陥れられた刑事に扮した『スペシャリスト』（2013~/テレビ朝日）、父親の借金により全てを失った男が復讐に立ち上がる『銭の戦争』（2015/関西テレビ）と、人生に訪れた巨大な「闇」に立ち向かう人物を演じている。画面の外では、今年の初めに日本中の話題となった「SMAP解散騒動」で、20年以上続けてきた彼らの世界にも大きな転機が訪れていることがわかった。サラリーマンなら課長～部長クラスの年代に達したわけで、今後はそれぞれの道を歩んでいく方が自然の成り行きとも思える。草薙さんはますます俳優としての活動が盛んになるだろうが、願わくば、映画での代表作が生まれることを期待したい。たとえば中国や韓国など、東アジアの映画作家と組んでみるのはどうだろう。“2010年代の男はこうして生きている”という作品を、彼の主演でぜひ見てみたい。

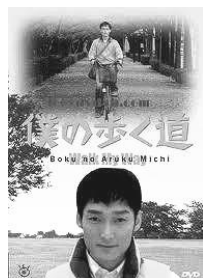
参考文献:『Okiraku』草薙剛・著(月刊ザテレビジョン連載、単行本:KADOKAWA)



いいひと。  
(1997/DVD)



黄泉がえり  
(2003/DVD)



僕の歩く道  
(2006/DVD)



映画 任侠ヘルパー  
(2012/DVD)